

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



CONTENTS

- 新年のご挨拶……………①
- 診療科紹介……………③
 - 消化器内科
- BCP実践とアクションカード
活用について研修を行いました……………④

- 第5回 京都中部総合医療センター
健康フォーラム……………⑤
- 病院スタッフ紹介……………⑥
- 病院機能評価3rdG: Ver2.0 認定……………⑥
- 数字で見る京都中部総合医療センター……………⑦
- 公立南丹看護専門学校……………⑧

- 近隣の連携医療機関の先生方……………⑨
 - 医療法人蒼風会 Sky Dental Clinic
 - ふくしま内科醫院
- 感染対策……………⑩
- 丹後半島駅伝大会……………⑩

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院(地域災害医療センター)
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都市南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2020.1
Vol.45
新春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

新年のご挨拶

～令和の時代に希望を込めて～

院長 辰巳 哲也



新年明けましておめでとうございます。新春を迎え皆様におかれましては、お健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。今年もどうか宜しくお願い致します。

「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味である「令和」の時代となりましたが、2019年も様々な出来事がありました。

自然災害では、関東史上最強の台風とも呼ばれた台風15号は千葉県を中心に暴風被害を与え、台風19号は東日本および東北地方の広範囲に記録的な豪雨をもたらして、主要河川の氾濫・堤防決壊を引き起こしました。また7月18日に起こった京都アニメーション放火事件では罪もない多くの社員が死傷するという痛ましい事件が発生しました。海外に目を向けると、香港で中国本土などへの犯罪容疑者引き渡しを可能にする逃亡犯条例の改正案に反対し、学生ら約100万人以上が参加する大規模デモが行われました。若者や市民が安心して暮らせるよう早期の平和的な解決が望まれます。

喜ばしい出来事としては天皇陛下が御即位され「即位礼正殿の儀」やパレードである「祝賀御列の儀」など皇室の行事を身近で拝見することができました。常に国民に寄り添うことを重んじられているご姿勢に心からの敬意と親しみを感じることができました。またスポーツではラグビーW杯日本大会が開幕し、日本代表は初の8強入りを果たす快挙を成し遂げました。選手たちの真剣なプレーに、にわかラグビーファンの私も含めて多くの日本人に勇気と感動を与えてくれたことが今も思い出されます。

医療に目を向けると、2019年9月26日に厚労省地域医療構想ワーキンググループ会合から「再編統合の必要性について特に議論が必要な公立・公的医療機関等（再検証対象医療機関）」として424病院が発表されました。地域医療構想を促進することの必要性は理解しますが、いきなりの公表については、それぞれの地域での役割を考察せず、軽率に再編統合を数値のみで論じることによる大きな違和感を覚えました。また2024年に迫った医師の働き方改革を進める上で、医師偏在や診療科偏在の解消が是正されていない現状やタスクシフトやタスクシェアを行っていく上での財源保障がない制度の断行は地域医療を崩壊させかねない危惧を感じざるを得ません。

また、京都府では多くの診療科で専攻医数のシーリング（定数上限）が設定されましたが、今後の京都府内における地域医療への影響が懸念されます。これからも加速する超高齢社会において、若い世代の医師たちには患者が求めているものはAIなどを駆使した高い診療技術だけではなく、患者を取り巻く社会環境を配慮した全人的医療の提供であることを学んで欲しいと願っています。

毎年、冬のイベントとして定着してきた「京都中部総合医療センター健康フォーラム」が昨年も12月14日に行われました。諏訪中央病院名誉院長の鎌田 實先生をお招きし「健康長寿の秘訣」や「誰かのために手を差し伸べる大切さ」をユーモアたっぷりにお教えいただきました。時間を忘れて聞き入るすばらしい内容の特別講演でした。ご参加賜りました多くの皆様にご場をお借りして心より御礼申し上げます。

2020年は子年です。子年は新しい運気のサイクルの始まりで、植物に例えると成長に向かって種子が膨らみ始める時期で、未来への可能性を感じさせます。令和元年の「新語・流行語大賞」にはラグビーW杯日本代表のスローガン「ONE TEAM」が選ばれました。益々、地域における病院のあるべき姿が模索される時代、医師や医療を取り巻くすべての関係者が「ONE TEAM」となって地域医療を守っていくよう努力を続け、令和の時代が明るい希望に満ちた世の中になることを願っています。最後になりましたが、皆様にとってこの1年が幸多き1年でありますように、心からお祈り致します。

新年のご挨拶

— オリンピックイヤーを迎えて —

令和2年（2020年）のお正月を迎え、心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましてはきっと、新たな決意・抱負とともに新年をスタートされたのではないのでしょうか。

本年は「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されるオリンピックイヤーです。顧みますと、前回昭和39年（1964年）の東京オリンピックは私が中学生のとき、TVニュースで、開会式、バレーボールの試合やマラソン・レースを視聴し、発展しつつある日本の国の一国民として誇りと喜びを感じたことを思い起こします。一方、今回のオリンピックは日本の置かれている状況も前回とは大きく変化し、超高齢稀子社会を迎えた中での開催となります。

恵まれた身体能力に一層の磨きをかけたアスリートが活躍するオリンピックはとても素晴らしいスポーツの場です。他方、身体に障がいをもちながらも残存機能を生かし、また装具の助けも得つつ競技を行うパラリンピックには、医学・医療の現場にいる者として特別の思いを抱きます。パラリンピックのパラが、対麻痺の英語パラプレジアに由来することから推察できるように、当初は下半身麻痺の方限定のスポーツ大会でした。現在のパラリンピックは、四肢に限らず、視覚や聴覚の障がいをもつ方々も参加され、障がい・競技の種類ともに広がりのある大会になりました。医学や医学をとりまく科学技術の進歩を味わうことのできる機会でもあります。参加される選手たちに心から声援を送りたいと思っています。

南丹医療圏における唯一の地域医療支援病院として、本院が次の新たな一歩を踏み出すことができる佳き年となりますよう祈念しつつ、ご挨拶にかえさせていただきます。

総長 伏木 信次



看護部より新年のご挨拶



看護部長 川勝 智子

新年あけましておめでとうございます。新元号「令和」の時代が始まり、気持ち新たに新年をお迎えしている方も多いのではないのでしょうか。平成から令和となった昨年には、台風などの自然災害が頻発し、各地で大きな被害が発生した年でした。被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

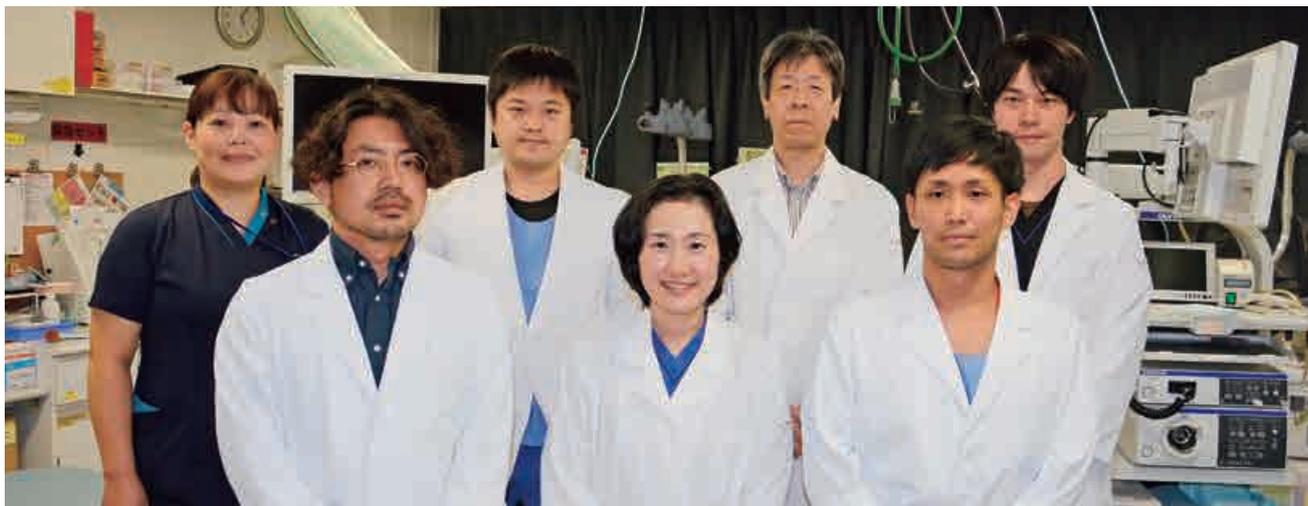
看護部におきましては、患者さん中心の医療を提供するため、患者さんに寄り添い、一人ひとりに合った看護を提供し、納得した医療を受けていただくように、看護やケア、疾病予防、生活指導を今後も充実していくことを目標としています。基本的なケアや技術を丁寧に行い、チームと協調し、看護師としてのプライドを持ち、体も心も健康的に取り組んでまいりたいと思っております。

看護師不足は解消されず大変厳しい状況ではありますが、今年はずみ年です。「鼠算式に増える」という表現もあるように、看護師確保に努め、看護部がますます「繁栄」し、京都中部総合医療センターのロゴマークにあるように、地域医療の中心的存在となり、3枚の葉が示す生命・健康・信頼を守り、築いてまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

消化器内科

Gastrointestinal Medicine



消化器内科部長 いのうえ かおり 井上 香織

消化器内科は、5名の常勤医師と4名の非常勤医師が在籍しており胃・食道・腸などの消化管疾患と胆嚢・胆管・膵臓の胆膵疾患の診療を担当しています。外来診療は月曜日から金曜日、常勤医師が行っており、消化管領域においては食道癌・胃癌・大腸癌などの悪性腫瘍、粘膜下腫瘍やポリープなどの良性腫瘍、逆流性食道炎・胃・十二指腸潰瘍・潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患などを、胆膵領域においては膵臓癌・胆道癌などの悪性腫瘍、胆石症・胆嚢炎・胆管炎・急性膵炎などの診療を行っています。消化器内科では、このような多岐にわたる疾患を的確に診断し、治療をすすめるため、内視鏡検査・CT・MRI・超音波検査などいろいろな検査を行っています。

がん診療

胃癌、大腸癌などを診断するうえで内視鏡検査は必須の検査であり、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）は内視鏡室で月曜日から金曜日まで毎日、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）も放射線科テレビ室で火曜日以外の毎日行っています。近年消化管がんは罹患率が高く、全ての癌のなかで男性において1位が胃癌、3位が大腸癌、女性においても2位が大腸癌、4位が胃癌です（2015年全国癌罹患率より）。

従来は外科的治療の対象であった消化管の早期がんに対し、体の負担が少ない内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が標準治療として確立し、がんの治療法が従来と大きく変化しました。当科では近隣の医療機関と連携・協力しながら、胃・大腸のポリープの内視鏡的切除術（EMR）や早期食道癌・早期胃癌・早期大腸癌のESDを積極的に行っております。また、腹部症状がある方だけでなく、検診や人間ドッグでのバリウム検査異常や便潜血反応陽性をきっかけに多くの方に内視鏡検査を受けていただいております。がんの早期発見に努めています。

救急医療

急性腹症や吐下血、閉塞性黄疸といった緊急対応を要する救急医療の現場でもニーズの高い診療科のひとつです。近隣の医療機関からご紹介いただくことも多く、消化管出血に対する内視鏡的止血術、閉塞性黄疸や総胆管結石性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージ、結石除去術など緊急処置が必要な場合は24時間対応しています。

チーム医療

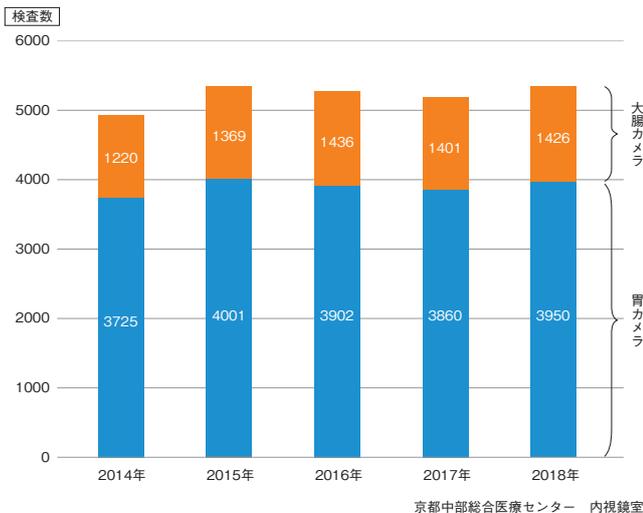
外科、病理診断科、放射線科をはじめとする他科の先生方、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師や医療事務スタッフなど多くの方々のご協力があることで初めて成り立つ診療科であり、夜間祝日の緊急検査など、慌ただしい時も多々ありますが、皆で協力して診療を行っています。癌や急性腹症など外科手術の適応となる疾患も多く、迅速な対応をさせていただくため、消化器外科とは特に連携を深め常に情報交換を行い円滑な診療を心がけており、毎週、内科・外科合同のカンファレンスを開催しています。

これからも地域の皆様方から信頼され必要とされる診療科として、より良い医療を提供できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

消化器内科検査実績 (平成30年1月～12月)

○上部消化管内視鏡検査	3,950件	○大腸内視鏡検査	1,426件
経鼻内視鏡検査	46件	ESD/EMR	341件
内視鏡的止血術	46件	○内視鏡的逆行性胆管膵管造影	176件
ESD/EMR	60件	結石除去術	85件
○内視鏡的胃瘻造設術	21件	○胆管ステント留置	104件

当院では、たくさんの方が
内視鏡検査を受けています



EMR：内視鏡的粘膜切除術 (Endoscopic Mucosal Resection)

胃や大腸のポリープを切除する治療法の一つです。生理食塩液を粘膜下層に注入してから、金属でできた円形ワイヤーを掛けて高周波電流で焼き切ります。短時間で治療ができますが、ワイヤーのサイズから一度に切除できる腫瘍の大きさは2cmくらいまでです。

ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic Submucosal Dissection)

高周波メスを使い粘膜下層のレベルで病変を剥がし取る治療法です。EMRとの違いは、1. 周囲粘膜に切れ込みを入れる点、2. 粘膜下層の剥離操作を行う点です。これらの操作により大きな2cmを超える病変でもひとまとまりに切除することができ、正確な病理診断が可能となります。治療対象病変は食道、胃、大腸で若干異なりますが、基本的には、①リンパ節転移がないこと、②技術的に一括切除ができるということ、を満たす悪性腫瘍です。

BCP実践とアクションカード活用について研修を行いました



グループワーク



研修会

令和元年10月29日に東京都立広尾病院減災対策支援室副室長の中島 康先生を講師にお招きし、病院のBCP (Business Continuity Plan:事業継続計画) に関する研修会を開催しました。研修は1部と2部に分けて開催し、まず第1部では病院のBCPについて病院管理職と当院のDMAT隊員を中心にグループワークを含んだ研修を行いました。モデル病院の課題把握と災害時の対策や、情報の重要度分類方法などBCP作成の要件から実践までをお話いただきました。

第2部ではBCPを実践するためにアクションカードを活用するという内容で当院や地域の医療関係者を対象にした研修を行いました。災害とは自然災害・火災・事故など多岐にわたります。近年日本では大きな地震や、台風の上陸などが毎年のように発生していますが、発生予測ができない火災や、地震発生時の業務継続でのアクションカード活用についてお話いただきました。日中以外での発災を想定し少ない職員でも対応できるようなアクションカードの整備や数名での小訓練についてお話いただきました。

当院は災害拠点病院として指定されています。地域の基幹病院としても発災時に患者さんを守り、病院を守るようこれからも地域の関係機関と協力していきたいと思っております。

令和元年12月14日に「ガレリアかめおか」にて第5回京都中部総合医療センター健康フォーラムを開催いたしました。この会は、地域住民の皆様に健康にまつわる情報や話題を提供し、ご自身の健康について考えるきっかけとしていただく事を目的として開催させていただきます。

当日は、幸い天候に恵まれて比較的暖かな1日となりました。師走の慌ただしい時期にもかかわらず、約400名の方々にご参加いただきました。

最初に一般講演として3名の病院スタッフの講演をお届けしました。

理学療法士の谷本篤紀からは、正しい姿勢とはどのような状態で、それを保つことが健康につながることをお伝えしました。薬剤師の武田智子は、縁の下の力持ちとも言える、普段は皆様が気付いていない薬剤師の仕事の数々を紹介し、また薬との付き合い方についてアドバイスをしました。乳腺外科部長の小谷達也は、日本女性の罹患率1位の乳がんについて、自己検診の大切さから、日々進歩している治療法まで、幅広く説明しました。

第2部の特別講演では諏訪中央病院名誉院長 鎌田實先生に『「がんばらない」けど「あきらめない」～いのちを支えるということ～』をテーマにお話ししていただきました。

長年地域医療に携わってこられたご経験に基づいて、人生の最期の迎え方は自己決定することが大切であること、人生100年時代となった現在はフレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）にならないことが重要であることをお話しになりました。貯筋（筋肉を鍛えて貯める）に有効な「鎌田式かかと落とし」と「鎌田式スクワット」を、実演を交えてご説明いただき、会場の参加者も一緒に挑戦しました。地域包括ケアの推進、東北の被災者支援やイラクにおける医療支援などで出会った方々とのエピソードには、心が揺さぶられる思いでした。そして、講演会の後、鎌田先生のサイン会には長い列ができました。

当日は何かと至らぬ点多々あったかと思いますが、皆様のご協力のもと、無事に終了できましたことに厚くお礼申し上げます。今後も、地域住民の皆さまに、病院からさまざまな形で情報提供ができるように努めて参りますので、よろしくごお願い致します。



辰巳院長からのご挨拶
多くの方にご参加いただきました。



鎌田 實先生のご講演
「がんばらない」けど「あきらめない」
～いのちを支えるということ～



鎌田實先生のご講演
実演を交えて、会場の方々にも参加いただきました。



健康フォーラム運営スタッフ

外来がん治療認定薬剤師

はるな やすひろ
薬剤部・医薬品情報係長 春名 康裕

● 外来がん治療認定薬剤師とは

外来で行われるがん治療を安全に行い、かつ地域がん医療において患者とその家族のトータルサポートに携わることで国民の保険、医療、および福祉に貢献をすることを目的に、日本臨床腫瘍薬学会が行っている認定資格です。保険薬局・病院薬局の薬剤師を対象とし、認定された薬剤師のことを外来がん治療認定薬剤師と呼びます。当院では2名の薬剤師が認定資格を取得しています。



● 業務内容

外来がん治療認定薬剤師の名前通り特に外来で抗がん剤治療を受けられる患者さんと関わっており、その中でも主に点滴治療を行う患者さんと接する機会が多いです。

初めて治療を受けられる患者さんからは、副作用や今後に対する不安がヒシヒシと伝わってきます。外来治療のほとんどは自宅療法が主となるため、「体調異変時に不安にならない・対応方法をしっかり理解してもらう」を意識して副作用については特に詳しく説明を行っています。

実際に治療を続けておられる患者さんからも、副作用が辛かった話を受けることがしばしばあります。その情報を主治医に報告し、一緒に症状を緩和できるような薬剤提案をしています。その提案により、次回面談時に前より調子が良かったと話してもらえた時にはやりがいを感じています。春名さんには話しやすいと言っていただくと非常にうれしい反面しっかり勉強しなければと身の引きしめる思いです。

他にも以前の広報誌で紹介がありましたが、保険薬局の薬剤師とも連携しています。患者さんの状況やそれに対する薬剤の情報をお互いにお薬手帳や専用の用紙で共有しています。この連携をさらにより強化し、地域でより安全ながん薬物療法が行えるよう尽力していきたいと思っております。

病院機能評価3rdG: Ver2.0認定



当院は令和元年10月に日本医療機能評価機構より「病院機能評価認定病院」として認定されました。認定にあたっては、書類審査の他、調査員6名による2日間の現地調査により、患者中心の質の高い医療が実践されているか、そのためのプロセスや体制が出来ているか等について様々な観点から審査されます。その結果全ての項目について基準以上の評価を得なければなりません。当院は平成21年と平成26年にも認定されており、今回で3回目の認定となります。

日頃から業務の改善や新たなプロセスの導入に努めていますが、公的な第三者機関の評価を受けることで新たな改善点を認識することが出来、更なる医療の質の向上に向けた取り組みを進めて行くことが出来ます。

このため、認定されたら終わりではなく、機能評価の受審を通じての調査員からの指摘のみならず、準備段階での自己点検の中で見つかった改善点についても取り組みを進めています。今後ともこのような取り組みを通じて患者さん中心の良質な医療を提供し、地域に愛され信頼される病院を目指してまいります。

病院機能評価とは

公益財団法人 日本医療評価機構が行う病院の医療の質に関する、中立的な第三者評価です。患者さんを中心とした質の高い医療を提供するために病院の理念・運営方針や、良質な医療を提供するためのプロセスの実践から改善サイクルの実行、病院の組織運営について、4つの領域に分けて評価を受け、一定の水準を満たすと判定されると認定病院として認定証が発行されます。

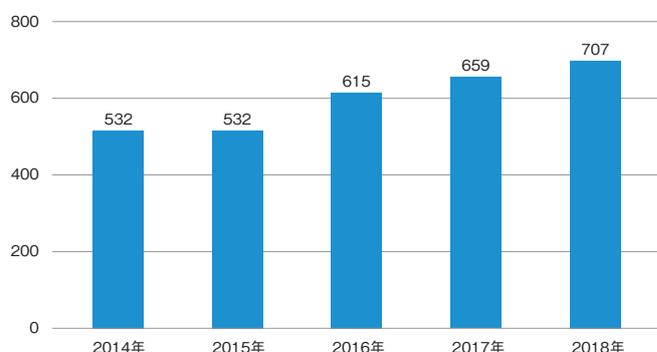


がん登録件数から見ると

院内がん登録とは、当院でがんの診断・治療を受けた全ての患者さんについて診断・治療・予後に関する情報を収集し登録・集計することです。これによりがん診療の実態把握や質の向上、がん患者さんの支援に役立てることを目的としています。地域がん診療病院である当院では2007年から登録を開始しています。

過去5年間の登録件数をグラフにしました。件数は年々増加しており、2016年は前年と比較して80件増となり、その後も1年に50件程度増加しています。

登録症例数

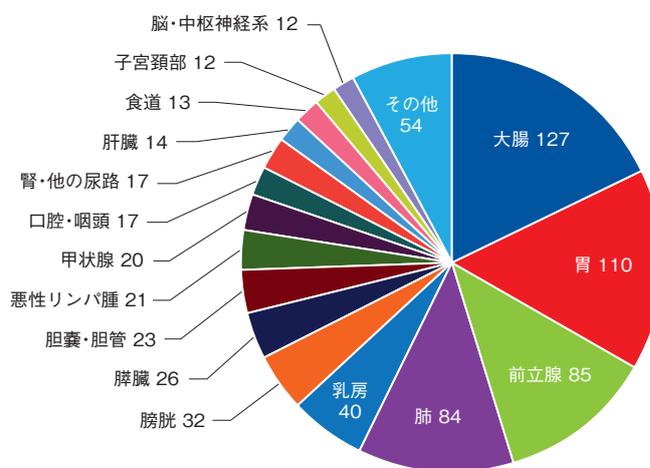


がん登録の部位別件数から見ると

2018年に当院でがんと診断された症例を部位別にグラフにしました。登録件数が10件以下の部位は『その他』としています。当院は地域がん診療病院として様々な部位のがんに対応しておりますが、なかでも「大腸（結腸・直腸）」の件数が最も多く、次いで「胃」「前立腺」「肺」となっています。

がんと診断された患者さんが医療機関を受診したきっかけは自覚症状によるものが多いですが「大腸」「胃」「前立腺」「肺」は検診結果をきっかけに医療機関を受診された患者さんが他のがんよりも多くなっています。これらのがんの発見には検診も重要であることが分かります。また、発見時の病期（がんの進行度を知るための指標で0～IV期まであります）も0～I期が多く、がん登録情報からは比較的早期の段階で診断・治療ができています。

2018年部位別登録件数



当院のがん診療について

副院長・がん診療運営委員会委員長 やま おか のぶ き 山岡 延樹

当院でのがん診療件数は年々増加しておりますが、標準的で質の高いがん専門医療を行うためには、ハード・ソフト両面からの環境整備や体制整備が必要です。当院は南丹2次医療圏のがん診療拠点として「地域がん診療病院」の指定を受け、手術治療、化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療、緩和ケアに至るまで幅広い対応が展開できる体制を整えております。今後も皆様へのがん診療を安心してお任せいただけるよう、さらに精励して参ります。



看護学校ってどんなところ？

副看護学校長 もり みずえ 森 瑞枝

令和元年8月と10月に学校見学会を開催しました。学校見学会では「看護学校ってどんなところ？」をテーマにお話をして、学校内の施設見学をしていただきました。看護学校は一般の学校とは違い実習室があります。ユニフォームに着替え、色々な技術を実習室で学びます。学校公開の一環として、紙面上ではありますが、学校内部の施設をご紹介します。

今後とも公立南丹看護専門学校・学生をよろしく申し上げます。



ラウンジ

学生同士で勉強したり、昼休みにランチをしたり、思いおみに過ごしています。

教室

学生は講義を受けたり、仲間と一緒に過ごしています。



基礎看護実習室

看護技術の演習を行う教室です。学生は看護の技術を身につけるため繰り返し練習を行います。



情報室



情報科学の講義を受けたり、課題レポートの作成やウェブの情報収集を行います。

図書室

医学や看護に関連する専門書などが揃っています。



在宅看護実習室

在宅療養の現場での看護技術を学ぶ教室です。



近隣の連携医療機関の先生方

亀岡市

医療法人蒼風会
Sky Dental Clinic

院長 おおや たつろう 大矢 竜朗



住 所：京都府亀岡市千代川町小林下戸9-7
駐車場：あり
Web：https://www.sky-dental-clinic.com

『地域医療連携の大切さ』

平成29年5月に亀岡市の千代川町で開業させていただき2年半が経ちました。「笑顔のまわりには幸せが集まります。私たちはそのお手伝いができることを誇りとします」を医院理念に歯科医院という立場で患者さんが安心して通えるように、お口の健康を守るように日々の治療と予防に努めております。

その中で感じることは地域医療連携の重要性です。来院される患者さんの中には全身疾患のある方の抜歯や、唾をつくるところに石ができたり、お口の粘膜の病気のある方など歯科医院で扱えない病気も多々あります。そのような場合は口腔外科と連携して治療にあたります。鼻炎による口呼吸でお子様の歯並びに影響が出る場合は耳鼻科、歯科金属によりアレルギーが出る場合は皮膚科といったように、これからはより地域医療の連携が必要になります。昨年10月に京都中部総合医療センターで行われた認知症の講義に参加させていただいたのですが、認知症のコミュニケーションなど歯科の勉強会やセミナーでは聴くことのできない内容でとても新鮮でした。これからも、機会があれば医科や介護の講習に参加させていただき、より親密に地域医療連携ができるようになればと思います。

亀岡市

ふくしま内科醫院

院長 ふくしま たつお 福島 達夫



住 所：京都府亀岡市旅籠町25
駐車場：あり
Web：https://f-naika.net

『亀岡市旅籠町のふくしま内科醫院』

当院は内科を中心に、リウマチ疾患と腎臓病、糖尿病を専門としております。関節リウマチに関しては、いまや生物学的製剤が治療の中心に置かれ、リウマチも治る時代になってきました。早期治療開始で関節の変形を残すことなく治癒せしめることが可能になってきました。腎臓病の領域においても、慢性糸球体腎炎も疾患の増悪速度を遅くすることが可能になってきました。しかしその一方で、疾患頻度を増しているのが糖尿病であり、それに付随して発症する糖尿病性腎症であります。日本腎臓学会では平成30年に糖尿病性腎臓病(DKD)として顕性蛋白尿を伴わないまま悪化する腎疾患を、従来の糖尿病性腎症に加えた新たなカテゴリーとして提唱するようになりました。糖尿病性腎臓病(DKD)は、腎機能悪化により透析療法が必要となり経済的・社会的資源を低下せしめるのみならず、人的社会資源をも低下せしめる最も重要な疾患であり、世界を挙げて対峙する必要のある疾患であります。また当院では在宅医療にも注力しております。近年では死の権利行使が注目され、在宅医療や在宅看取りの要望が増えております。最後まで自宅で生活したい、また最期は自宅でという要望にもお応えできるようにつとめてまいります。

マスクの着用と手指消毒をお願いします

感染対策

インフルエンザや感染胃腸炎など感染症が流行する季節となりました。院内感染を防止するために、病院へ来院される皆さまにはマスクの着用と手指消毒へのご協力をお願いしています。

手指消毒

病院の入り口、入院病室の入り口には手指消毒用のアルコール等を設置しています。ワンタッチ分を手にとっていただいて、乾燥するまで手指に塗り込んでください。



病院入り口に設置しております



各病室の入り口に設置しております

マスクの着用

鼻から顎までがきちんと覆われるようにしっかりとつけましょう。

病院ではマスクの配布等は行っておりません。来院される場合にはご自身でマスクをご用意ください。また院内にはマスク販売機を本館正面玄関入り口と第2病棟入り口の2箇所に設置しておりますので、ご利用ください。(2枚/100円(税込))



本館正面玄関入り口の販売機



丹後半島駅伝大会

臨床工学科・臨床工学技士 ^{やぎ だいすけ} 八木 大輔



令和元年11月24日、今年も丹後半島駅伝大会が開催されました。平成29年に南丹病院の名称が京都中部総合医療センターに変更されましたが、大会での登録名称は南丹病院のままで、他チームからは「強豪南丹病院」としてライバル視されています。

今年は男子2チーム、女子1チームで参加させていただき、山々が秋色に染まる丹後半島で熱戦を繰り広げてきました。大会当日、例年よりも暖かい秋空のもと、足が止まりそうになろうが、苦しくて辛くても激走した結果、女子チームは準優勝、男子チームは5位と15位という強豪の名に恥じぬ結果となりました。

大会は終わったばかりですがもうすでに、来年の大会に向けて練習を始めています。

八木町内、亀岡市内で見かけることがあると思いますが、温かい応援をよろしくお願いします。



女子チーム



男子Aチーム



男子Bチーム

令和元年度緩和ケア講演会

バカボンパパに学ぶ苦悩の人間学

—「これでいいのだ」「わかってたまるか」に隠されたコミュニケーションの本質—

日時：令和2年2月22日(土) 14:00～16:00

場所：ガレリアかめおか 2階大広間

講師：佐藤 泰子先生
(京都大学大学院人間・環境学研究科研究員)

入場
無料

申込・
お問い
合わせ

京都中部総合医療センター 地域医療連携室
TEL:0771-42-2510(代)
FAX:0771-42-5071
※令和2年2月20日までに申込をお願いします。



看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

- ◆看護師寮利用できます。(正職員)
 - 月額10,600円(税込)
 - *水道・光熱費込み
 - *冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。



<http://www.kyoto-chubumcdc.or.jp/nurse/>

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
令和時代の新春を迎え広報誌45巻の発刊となりました。新春号では消化器内科紹介、がん診療についてなど数多くの情報を掲載していますのでご一読いただけたらと思います。本広報誌は平成から令和へ継続して発刊してきています。今後も皆様のご支援のもと充実した内容で掲載していけるよう頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

広報委員 T.Y.

